

朝日ラバー (5162・JASDAQ スタンダード)

2013年7月8日

医療関連の回復や RFID 関連製品の拡大などに注目

アップデートレポート

モーニングスター(株)
松尾 繁

主要指標 2013/7/4 現在

株 価	286 円
年初来高値	320 円 (13/5/14)
年初来安値	255 円 (13/2/21)
発行済株式数	4,618,520 株
売 買 単 位	500 株
時 価 総 額	1,320 百万円
予 想 配 当 (会 社)	8.00 円
予 想 E P S (ア ナ リ ス ト)	24.19 円
実 績 P B R	0.44 倍

直前のレポート発行日

ベーシック 2013/01/25

13年3月期通期は医療関連の在庫調整など響き営業減益

13年3月期通期の連結業績は、売上高が前年比4.4%減の47億8,900万円、営業利益が同44.3%減の1億3,500万円と減収・営業減益だった。工業用ゴム事業は自動車向け照明製品などの需要が底堅く、小幅減収ながら増益を確保。ただ、同事業のうちスポーツ用ゴム製品の卓球ラケット用ラバーは客先の在庫調整の影響を受け低迷した。一方、医療・衛生用ゴム事業では、薬液混注用ゴム栓の売上が顧客の在庫調整を背景に落ち込み大幅な減収・減益となり、連結業績全体の収益も減収・減益へと押し下げた。

会社側では12年11月時点で13年3月期通期の売上高、営業利益の期初計画を引き下げているが、実績は下方修正後の数値に概ね近い水準での着地となった。

14年3月期通期は8割超の営業増益を計画

14年3月期通期の連結業績について会社側は、売上高53億円(前年比10.7%増)、営業利益2億5,000万円(同84.5%増)と大幅増益を計画している。卓球ラケット用ラバーが回復するほか、医療・衛生用ゴム事業でも顧客の在庫調整が一巡する見通し。加えて、RFID タグ用ゴム製品の売上増なども見込んでいる。一方、照明関連製品で主力とする ASA COLOR LED の売上高は自動車関連市場の回復を完全には捉えきれず、前年から横ばいを想定している。

モーニングスターでは、14年3月期の会社計画の達成は十分可能と考える。15年3月期の業績についても、機能製品関連のさらなる成長を見込み、売上高58億円、営業利益3億1,000万円を予想している。

業 績 動 向	売上高 百万円	前期比 %	営業利益 百万円	前期比 %	経常利益 百万円	前期比 %	当期純利益 百万円	前期比 %	EPS 円	
2013/03 実 績	4,789	-4.4	135	-44.3	139	-34.0	76	5.4	16.88	
2014/03	会 社 予 想 (2013年5月発表)	5,300	10.7	250	84.5	195	39.8	110	43.3	24.19
	アナリスト予想	5,300	10.7	250	84.5	195	39.8	110	43.3	24.19
2015/03	アナリスト予想	5,800	9.4	310	24.0	260	33.3	150	36.4	32.98

業 績

13年3月期通期
は40%超の営業
減益に

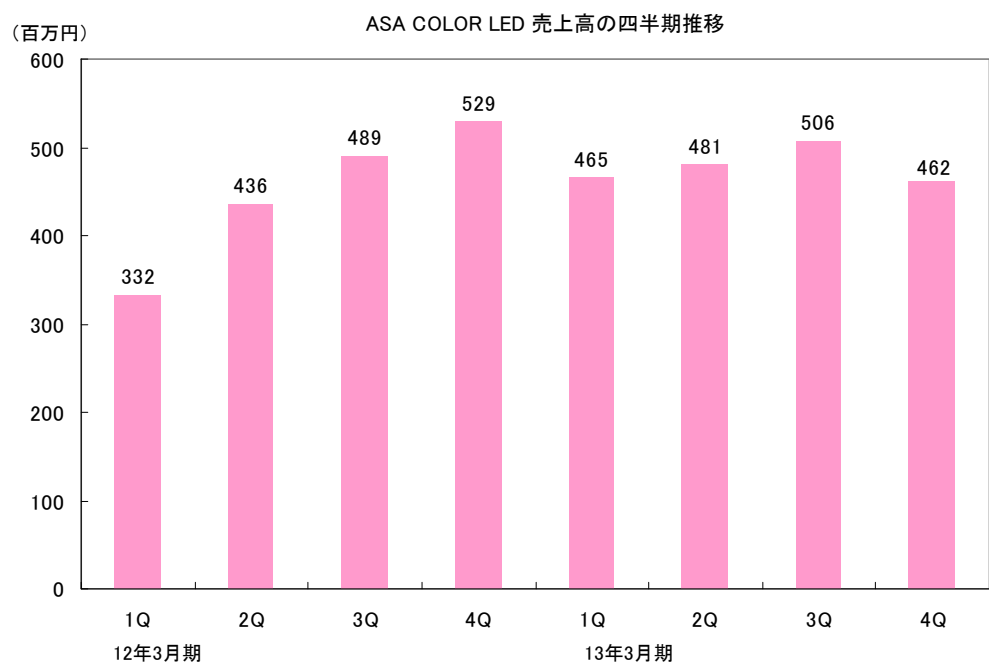
・業績解説

13年3月期通期の連結業績は、売上高47億8,900万円(前年比4.4%減)、営業利益1億3,500万円(同44.3%減)となった。工業用ゴム事業は自動車向け照明製品などの需要が底堅く、小幅減収ながら増益を確保。ただ、同事業のうちスポーツ用ゴム製品の卓球ラケット用ラバーは客先の在庫調整の影響を受け低迷した。一方、医療・衛生用ゴム事業では、薬液混注用ゴム栓の売上が顧客の在庫調整を背景に落ち込み大幅な減収・減益となり、連結業績全体の収益も減収・減益へと押し下げた。

会社側では12年11月時点で13年3月期通期の売上高、営業利益の期初計画を引き下げており、最終的には下方修正後の数値に概ね近い水準で着地した。

工業用ゴム事業の業績は、売上高37億9,400万円(同0.5%減)、セグメント利益2億9,500万円(同12.1%増)となった。車載関連の主要製品ASA COLOR LEDの売上高が19億1,500万円(同7.1%増)と増収に転じた。北米市場向け自動車を中心に受注が堅調に推移したことなどが寄与した。

ただ、同社の自動車関連製品は主に中・高級車向けを強みとしており、ASA COLOR LEDの需要は自動車市場全体の回復・低迷の動きとは完全には一致しない傾向がある。ASA COLOR LEDの売上高を四半期ごとに見ると、第1四半期に4億6,500万円、第2四半期に4億8,100万円、第3四半期に5億600万円と漸増傾向が続いたが、第4四半期は4億6,200万円と若干伸び悩んだ。

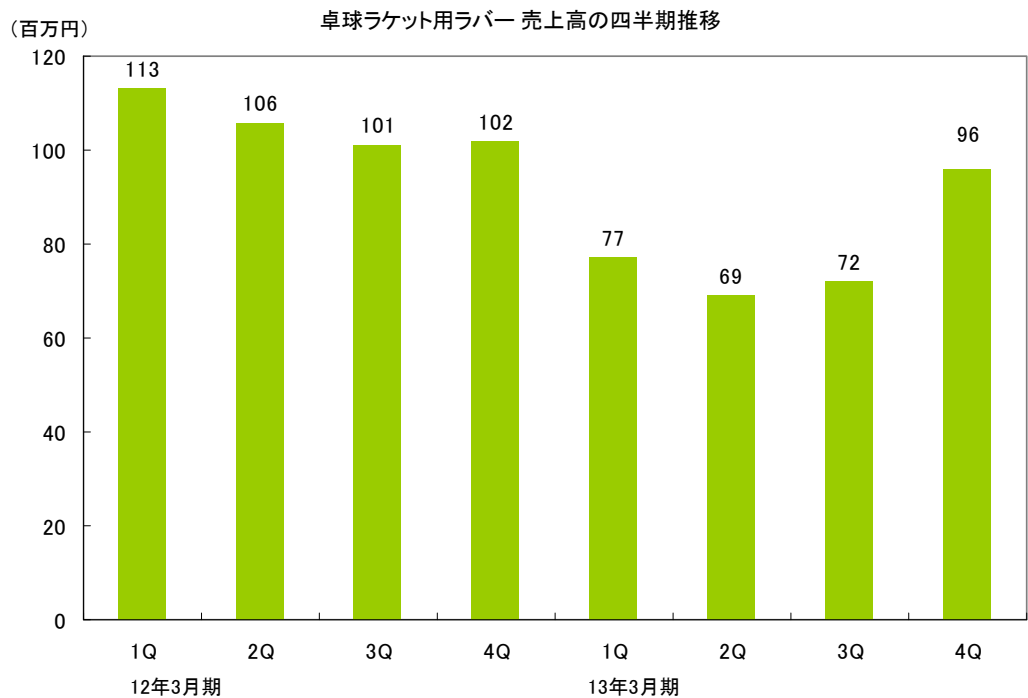


(会社資料よりモーニングスター作成)

業 績

工業用ゴム事業では自動車関連堅調も、卓球ラケット用ラバーは低調

一方、スポーツ用ゴム製品（卓球ラケット用ラバー）は、顧客の大幅な在庫調整により売上高が大きく減少した。通期の売上高は3億1,500万円（同25.4%減）と2ケタの減収。もっとも、12年3月期はロンドンオリンピック開催を前にスポーツ用ゴム製品の受注が高水準で推移したことには留意する必要がある。売上高を四半期ごとにみると第1四半期に7,700万円、第2四半期に6,900万円と減少が続いたが、第3四半期に7,200万円と持ち直し、第4四半期には9,600万円と復調が鮮明になっている。

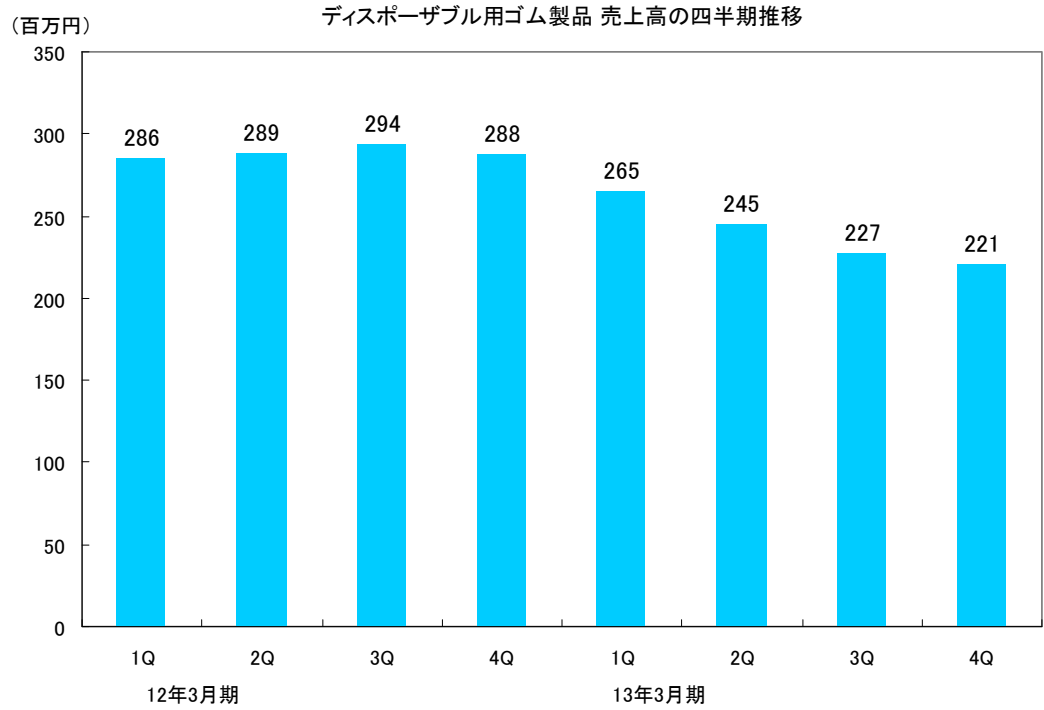


(会社資料よりモーニングスター作成)

医療・衛生用ゴム事業は顧客の在庫調整響き大幅減益

医療・衛生用ゴム事業の業績は、売上高9億9,500万円（同16.9%減）、セグメント利益8,400万円（同59.2%減）と大幅な減収減益だった。プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）向けガスケットは前年からの好調を維持したものの、薬液混注用ゴム栓の受注が顧客の在庫調整を受け減少。医療・衛生用ゴム事業は相対的な利益率が高く、連結業績全体の利益を押し下げる主因のひとつとなった。ディスプレイ用ゴム製品の四半期ごとの売上高は、第1四半期が2億6,500万円、第2四半期が2億4,500万円、第3四半期が2億2,700万円、第4四半期が2億2,100万円と鈍化傾向が続いたものの、下期（12年10月～13年3月）にかけては下げ止まりをみせた。

業 績



(会社資料よりモーニングスター作成)

主要製品の実績

	12年3月期実績	13年3月期実績	増減額	増減率
ASA COLOR LED	1,788	1,915	127	7.1%
卓球ラケット用ラバー	422	315	-107	-25.4%
ディスポーザブル用ゴム製品	1,159	960	-199	-17.1%

(単位:百万円)

(会社資料よりモーニングスター作成)

業 績

14年3月期通期
は80%超の営業
増益予想

・業績予想について

14年3月期の会社計画は、売上高53億円（前年比10.7%増）、営業利益2億5,000万円（同84.5%増）。セグメント別の売上高見通しは、工業用ゴム事業が41億7,000万円（同9.9%増）、医療・衛生用ゴム事業が11億3,000万円（同13.5%増）となっている。また、売上高見通しをさらに具体的な事業別で見ると、照明関連事業が23億2,000万円（同4.5%増）、医療関連事業が10億8,000万円（同12.5%増）、機能製品関連事業が19億円（同18.8%増）としている。

第2四半期累計期間での連結業績予想は売上高26億円（前年同期比8.0%）、営業利益8,800万円（同0.4%減）。通期予想に対する進捗率はそれぞれ49.1%、営業利益35.2%と想定されており、利益ベースでは下期に伸びが加速する計画となっている。

	13年3月期実績	14年3月期見通し	前年比
売上高	4,789	5,300	10.7%
営業利益	135	250	84.5%
経常利益	139	195	39.8%
純利益	76	110	43.3%

（単位：百万円）

（会社資料よりモーニングスター作成）

セグメント別の売上高

	13年3月期実績	14年3月期見通し	前年比
工業用ゴム事業	3,794	4,170	9.9%
医療・衛生用ゴム事業	995	1,130	13.5%

（単位：百万円）

（会社資料よりモーニングスター作成）

卓球ラケット用ラバ
ーや医療関連が回
復し、REID タグ関
連も急拡大

機能製品関連事業のうち、客先での在庫調整から低調だった卓球ラケット用ラバーの売上は13年3月期第4四半期には回復傾向を示しており、14年3月期通期もこの基調が続くとして増収を予想している。また、同様に医療関連事業でも顧客の在庫調整が一巡することに加え、プレフィルドシリンジ向けガasketで引き続き好調な推移が見込めることから増収を想定。プレフィルドシリンジ向けガasketではサイズの異なる新製品の量産立ち上げも計画しており、時期は未確定ながら今後の業績に貢献してきそうだ。卓球ラケット用ラバー、医療関連製品とも比較的利益率が高い製品であるため、増収に伴う連結業績全体の損益改善効果が期待される。

業 績

機能製品関連事業では RFID タグ用ゴム製品が客先需要の活発化から急拡大する見通しで、14 年 3 月期の同製品売上高は前年比で大幅増となる予想を立てている。このほかにも新しい需要による受注獲得が視野に入っているようで、将来的に RFID タグ用ゴム製品が同社の新たな収益の柱に成長する可能性がある。新規案件の受注を獲得できれば設備投資に伴う償却負担から短期的に利益を圧迫する可能性もあるが、前向きな投資と評価できるだろう。

一方、照明関連事業のうち車載関連の主要製品 ASA COLOR LED では売上高横ばいを想定。顧客の単価引き下げ圧力が根強いなか、新規受注の獲得等に注力し売上水準の維持を図る構えだ。14 年 3 月期の事業別の設備投資は、照明関連事業 5,000 万円（同 16.7%減）、医療関連事業 1 億 9,000 万円（同 7.3%減）に対し、機能製品関連事業 2 億 6,000 万円（同 79.3%増）を計画している。

事業別の売上高

	13年3月期実績	14年3月期見通し	前年比
照明関連事業	2,220	2,320	4.5%
医療関連事業	960	1,080	12.5%
機能製品関連事業	1,600	1,900	18.8%

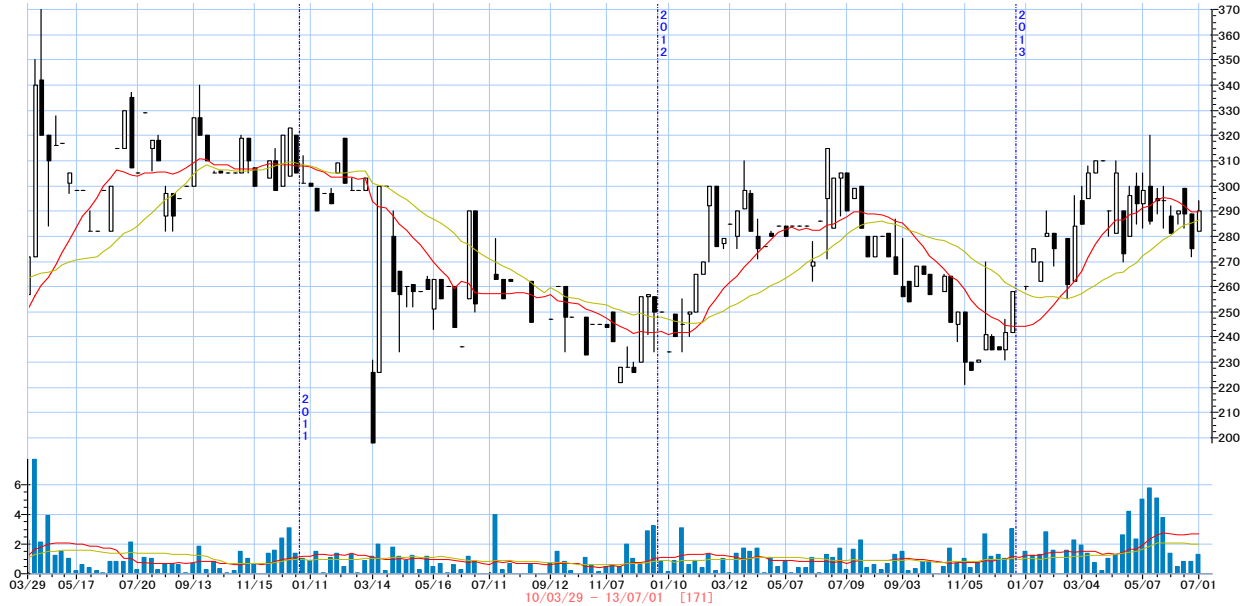
(単位:百万円)

(会社資料よりモーニングスター作成)

15 年 3 月期は
機能製品関連の
拡大に期待

モーニングスターでは 14 年 3 月期連結業績について、医療関連の回復や機能製品関連の成長により会社計画の売上高 53 億円、営業利益 2 億 5,000 万円の達成は十分可能と考えている。15 年 3 月期業績についても、RFID タグ用ゴム製品の伸長やマイクロ TAS 製品の量産化などで機能製品関連の売上高がさらに拡大するとの見方に立ち、売上高 58 億円、営業利益 3 億 1,000 万円を予想している。

朝日ラハ* - [5162/JQ] 週足 2013/07/08



(出所) 株QUICK
 上記チャート図の一部又は全部を、方法の如何を問わず、また、有償・無償に関わらず第三者に配布してはいけません。
 上記チャート図に過誤等がある場合でも株QUICK 社及び大阪証券取引所は一切責任を負いません。
 上記チャート図の複製、改変、第三者への再配布を一切行ってはいけません。

			2011/03	2012/03	2013/03	2014/03 予 (アナリスト)
株 価 推 移	株 価 (年 間 高 値)	円	370	310	315	-
	株 価 (年 間 安 値)	円	198	222	221	-
	月 間 平 均 出 来 高	百 株	225	175	217	-
業 績 推 移	売 上 高	百 万 円	4,806	5,010	4,789	5,300
	営 業 利 益	百 万 円	161	243	135	250
	経 常 利 益	百 万 円	117	211	139	195
	当 期 純 利 益	百 万 円	21	72	76	110
	E P S	円	4.81	16.01	16.88	24.19
	R O E	%	0.8	2.6	2.6	3.6
貸 借 対 照 表 主 要 項 目	流 動 資 産 合 計	百 万 円	3,803	3,907	3,582	-
	固 定 資 産 合 計	百 万 円	3,874	3,839	3,928	-
	資 産 合 計	百 万 円	7,695	7,758	7,517	-
	流 動 負 債 合 計	百 万 円	2,322	2,438	2,180	-
	固 定 負 債 合 計	百 万 円	2,558	2,459	2,371	-
	負 債 合 計	百 万 円	4,880	4,897	4,551	-
	株 主 資 本 合 計	百 万 円	2,842	2,887	2,927	-
キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー 計 算 書 主 要 項 目	純 資 産 合 計	百 万 円	2,814	2,861	2,965	-
	営 業 活 動 に よ る CF	百 万 円	422	766	323	-
	投 資 活 動 に よ る CF	百 万 円	-918	-526	-550	-
	財 務 活 動 に よ る CF	百 万 円	615	-305	-180	-
	現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	百 万 円	1,142	1,073	672	-

ディスクレーム

1. 本レポートは、株式会社大阪証券取引所（以下「大証」といいます。）が実施する「JASDAQアナリストレポート・プラットフォーム」を利用して作成されたものであり、大証が作成したものではありません。
2. 本レポートは、本レポートの対象となる企業が、その作成費用を支払うことを約束することにより作成されたものであり、その作成費用は、当該企業が大証に支払った金額に大証からの助成金を加えたうえでモーニングスター株式会社（以下「レポート作成会社」といいます。）に支払われています。
3. 本レポートは、大証によるレビューや承認を受けておりません（ただし、大証が文面上から明らかに誤りがある場合や適当でない場合にレポート作成会社に対して指摘を行うことを妨げるものではありません）。
4. レポート作成会社及び担当アナリストには、この資料に記載された企業との間に本レポートに表示される重大な利益相反以外の重大な利益相反の関係はありません。
5. 本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、有価証券の取引及びその他の取引の勧誘又は誘引を目的とするものではありません。有価証券の取引には、相場変動その他の要因により、損失が生じるおそれがあります。また、本レポートの対象となる企業は、投資の知識・経験、財産の状況及び投資目的が異なるすべての投資者の方々に、投資対象として、一律に適合するとは限りません。銘柄の選択、投資判断の最終決定は、投資者ご自身の判断でなされるようお願いいたします。
6. 本レポート作成にあたり、レポート作成会社は本レポートの対象となる企業との面会等を通じて、当該企業より情報提供を受けておりますが、本レポートに含まれる仮説や結論は当該企業によるものではなく、レポート作成会社の分析及び評価によるものです。また、本レポートの内容はすべて作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
7. 本レポートは、レポート作成会社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、大証及びレポート作成会社は、本レポートの記載内容が真実かつ正確であり、そのうちに重要な事項の記載が欠けていないことやこの資料に記載された企業の発行する有価証券の価値を保証又は承認するものではありません。本レポート及び本レポートに含まれる情報は、いかなる目的で使用される場合におきましても、投資者の判断と責任において使用されるべきものであり、本レポート及び本レポートに含まれる情報の使用による結果について、大証及びレポート作成会社は何ら責任を負うものではありません。
8. 本レポートの著作権は、レポート作成会社に帰属しますが、レポート作成会社は、本レポートの著作権を大証に独占的に利用許諾しております。そのため本レポートの情報について、大証の承諾を得ずに複製、販売、使用、公表及び配布を行うことは法律で禁じられています。

＜指標の説明について＞

本レポートに記載の指標に関する説明は、大阪証券取引所ウェブサイトに掲載されております。

参照 URL ⇒ <http://www.ose.or.jp/jasdaq/5578>